



2016・5・21

第 239 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 2千万署名達成し戦争法廃止を参院選の争点に

### 1200 万人分の署名を国会に提出

総かがり行動実行委員会など戦争法廃止を求める 2000 万統一署名を共同でよびかけた 29 団体は 5 月 19 日、署名提出集会を国会内で開き、これまで寄せられた 1200 万人分の署名を民進、共産、社民、生活の 4 野党を通じて国会に提出しました。集会では 4 野党の代表があいさつし、呼びかけ 29 団体からは、全日本視覚障害者協議会、安全保障関連法に反対する学者の会、非戦ネット、さようなら原発 1000 万人アクションの代表が、それぞれの取り組みを紹介しました。

集会では最後に「『2000 万人統一署名』を達成し、戦争法廃止・立憲主義回復を 7 月選挙の争点に」とのアピールを参加者全員の拍手で採択しました。アピールでは、「戦争法廃止・立憲主義回復を軸に進んできた市民と野党の共闘は、参院選 1 人区の多くで統一候補と自公候補の一騎打ちの構図を作り出してきています。初めて生まれたい画期的な政治状況を選挙勝利に結実させなければなりません。そのためにも、市民が選挙に向けてできる取り組みとして『2000 万人統一署名』を再度位置づけ、市

### 九条の会事務局学習会 戦争法の廃止をめざして －立憲主義の回復か安倍改憲か

- ◇日時：5 月 27 日（金）18 時 30 分～
- ◇会場：文京区民センター 3A 会議室  
報告 1「憲法 9 条と立憲主義」 山内敏弘・一橋大学名誉教授  
報告 2「戦争法から明文改憲へー安倍改憲の狙いと矛盾」 渡辺治・一橋大学名誉教授
- ◇参加費 一般 1,000 円 学生 500 円 高校生無料
- \* 事前申し込みは不要です

民が政治を変える政治状況を本格的に作り出していきたいと思います。6 月 30 日まで、何としても目標を達成するために、取り組みを強めていただくことを呼びかけます」としています。

### 東北 6 県首長 9 条の会が総会

【東北 6 県市町村長 9 条の会連合】 東北 6 県市町村長 9 条の会連合の第 3 回総会

が5月13日、青森市で開かれ、全国の都道府県知事、市町村長・元職に呼びかける「安保法制（戦争法）の廃止と『改憲』阻止を訴える緊急アピール」を採択しました。

同会は東北地方6県の首長、首長経験者による9条の会の連合で、党派にとらわれず憲法を守り生かすことを掲げて、2014年5月に結成されたものです。

総会には、座長を務めた青森県大知町の木下千代治元町長、青森市の鹿内博市長、秋田県の千田謙蔵・元横手市長、岩手県の遠藤治夫・元葛巻町長、山形県の渡部章・元高島町長、宮城県の川井貞一・元白石市長、鹿野文永・元鹿島台町長などが参加しました。

各県代表は、参院選を前に戦争法廃止をめざす市民運動の力で、野党統一候補が実現していることに触れながら、取り組んできた集会や学習会などを報告し、今後の運動の課題などについて交流。

「首長経験を生かし、東北が一つになって頑張ろう」と、2000万署名の達成と、夏の参院選での野党統一候補勝利、安倍政権の打倒を誓いあいました。

## 住民の生命と財産を守る自治体に

**【長野県喬木村／喬木村9条の会】** 喬木（たかぎ）村9条の会は5月8日夜、総会を開き、「憲法と自治」をテーマに記念講演した曾我逸郎中川村村長は、「住民の生命と財産を守る自治体として、国にものを言っていくことが大事」と話しました。

曾我氏は、「世界平和を掲げる憲法前文は、人類史でも最先端をいく立派な、志の高いものだ」と述べる一方で、改憲を主導

する安倍首相がよりどころにしている戦前の国家観や、自民党改憲草案に言及。「『上意下達』で『国家（全体）のための犠牲』を求めている。沖縄新基地建設など今の政治もそうなりつつある」と指摘し、少数意見や異論を含む積極的な議論こそが民主主義を鍛えると力説しました。

昨年の岡庭一雄阿智村前村長に続いて自治体首長の講演を聞いた、原耕平さん（34）は、「戦争中に『和』が悪用されたことを知った。『和』や協調性は美しく聞こえるが、言いたいことが言えないような社会では困る」と語っていました。

同村の村長、村議会議長、公民館長が招かれ、市瀬直史村長が来賓あいさつしました。

## 野党統一候補迎え「語る会」

**【石川県津幡町／津幡町9条の会】** 津幡町9条の会は13日、参院石川選挙区（改選数1）のしばた未来野党統一候補を迎え、「語る会」を開き、23人が参加しました。

事務局の堀井洋さんが開会あいさつ。

しばた氏は自己紹介の中で、アメリカ留学中に東日本大震災が発生したことを語り、「『日本では被災地に泥棒が入らないのはなぜか』とよく聞かれ、改めて日本の治安の良さや秩序を持った行動を誇りに思った。ところが帰国すると、安全保障関連法が強行された。安倍政治は許せない」と立候補の決意に至る経緯を述べました。

参加者からは、自民党に勝ち安倍暴走政治を止めるためには、「投票率を上げることが必要」「無党派や若い人が投票へ行くようにすることが必要」などの発言があり

ました。

## 署名の自主目標を達成

**【埼玉県草加市／9条の会草加等】** 埼玉県草加市（人口約25万人）で、戦争法廃止を求めて活動する「オール草加総行動」実行委員会は5月15日までに、戦争法廃止を求める2000万署名を2万2500人分集め、目標の2万2000人を超過達成しました。

同実行委員会は、9条の会草加や独協大学9条の会、憲法改悪反対共同センター等6団体で構成。駅前での宣伝や各家庭を訪問して署名を集めてきました。

署名用紙を各戸に配り、市内32カ所に回収ポストを設置して市民が署名を届けやすいように工夫。駅前ではシール投票などをよびかけながら取り組み、中高生や大学生ら若者も積極的に署名に応じました。

実行委員会の山内芳衛さんは「戦争法反対の運動が市民的に広がっています。若者が自らの問題として考え始めているのも頼もしく感じます。引き続き署名を積み上げていきたい」と話しています。

## 世論拡大し署名積み上げに奮闘

**【札幌市西区／9条の会等】** 戦争させない札幌西区民の会は5月9日、地下鉄琴似駅前で、戦争法の廃止を求める2000万署名を駅利用者やスーパーの買い物客らに呼びかけました。

9条の会や年金者組合など5団体から9人が参加。同会の阿部紘司事務局長らが「自衛隊がアメリカ軍と一緒にあって戦争できるというのが戦争法です」「平和に暮らしているところに暴走車を走らせているのが

安倍総理です」などと訴えました。

3歳の息子連れ母親は「この子のためにも平和でありつづけたい」と署名。77歳の女性は「終戦は小学1年生のとき。B29が飛び、空襲がひどかった。いまでもよく覚えています」と話しました。

熊本と大分を襲った地震の被災者への救援募金と川内原発の停止も訴えました。

**【北海道岩見沢市／岩見沢9条の会】** 岩見沢9条の会（ト部善雄代表）は5月9日、JR岩見沢駅前で、戦争法を廃止し、9条を守ろうと訴える宣伝を行いました。

ト部代表が「行動参加の5人のうち3人は元高校の教員で『教え子を再び戦場に送るな』の精神を退職後も忘れていません。主権は私たち国民にあり、戦争する国にするかどうかは内閣が決めることではありません。参院選から18歳から選挙ができます。高校生のみなさんも自分で考えましょう」と呼びかけました。

通勤客はもとより、多くの高校生がビラを受け取りました。

**【愛媛県／愛媛9条の会】** 愛媛9条の会は5月9日、松山市で戦争法廃止の2000万署名を呼びかけました。森英二事務局長とえひめユニオンの島本保徳副委員長が協力を求め、訴えを聞いていた戦争体験者が署名しました。

78歳の女性は「私の母も叔母も、戦争で薬もあまりない中で病気で死んでしまい、家も空襲で焼けてしまって…。戦後70年間、戦争は二度とないと思っていたが心配です。将来のある若い人たちに私たちのような体験はさせたくはありません」と話しました。

81歳の女性は「最近のことはよう忘れる

が、戦争のことははっきりと覚えとる。空襲は恐ろしかった。戦争だけはやってはならない」と語りました。

## 若者中心にトークセッション

### 【愛知県岡崎市／おかざき九条の会】

「平和って、どんな時、感じる?」。岡崎市の青年が5月8日、「平和フェスティバル」で、社会派アイドル「制服向上委員会」のメンバー4人を招いてトークセッションを開催。主催したのは、おかざき九条の会。次代を担う若者に、平和について考えてもらおうと企画。岡崎市制100周年記念事業の一つに選ばれ、500人ほど参加しました。

トークでは、岡崎の青年5人が自己紹介をかねて、平和と感じるの「ボーッとしている時」「子どもの寝姿を見ている時」などと発言。制服向上委員会のメンバーも「亀3匹と日なたぼっこしている時」などと紹介し、笑いに包まれました。

「平和が脅かされていると感じる時」については各人がフリップに書いて答えました。「奨学金」と書いた大学院生の男性が「夢をかなえたいと思って進学したのに、800万円の借金を抱えている。心おだやかじゃないので、平和を脅かすと思います」

「18歳選挙権」と書いた大学1年の男性は、最近になって選挙権について知ったことを明かし、「関心の薄い人が多くて不安だ」といいます。

制服向上委員会の野見山杏里さん(18)も「シールズなど積極的な学生もいるが、興味のない学生も多く、このまま選挙に行くのかと思うと不安。なんとかしなくては」。

橋本美香さんは「憲法改正は平和を脅か

す」と述べ、「戦後70年一度も戦争に巻き込まれることがなかったのは世界に誇れること」と語り大きな拍手に包まれました。

「どんな日本にしたいのか」との問いには、岡崎の青年が「若者が気軽に社会や政治に参加できる日本にするため、岡崎から発信していきたい」「一部の人の思惑で戦争になるのではなく、平和を実現するため、みんなで知恵をしぼる社会にしたい」。橋本さんは、芸能界の「政治タブー」を批判し、「自由に発言できる社会にしたい」と話しました。

## 憲法カフェで自民党改憲案論議

### 【三重県亀山市／亀山9条の会】

5月7日、亀山9条の会は「第9回憲法カフェ」を開きました。

今回は、自民党の改憲草案を自分たちで読んで考えようと、「亀山9条の会」の川辺一弘さんが助言者となって、読み合わせを行い、感想をだしあいました。改憲草案の前文を読んだところ、主語が日本国民から日本国になっていることをはじめ、国民のことよりも国家を重んじる内容になっていることに、70代男性は「国民は犠牲になれるということ」と怒りをあらわにしました。

60代男性は、前文で「郷土を誇りと気概を持って自ら守り」とあるが「原発推進は自然破壊ではないか」と矛盾をつきました。

第102条で「全て国民は、この憲法を尊重しなければならない」とあることから、憲法は本来、権力を縛るものであるはずなのに、改憲草案では国民が尊重するものにされている。これはおかしいなどの指摘もあいつぎました。